

令和8年度春日大社セミナー

お申し込みはこちら



春日大社は、奈良時代の神護景雲2年(768)に勅命^{ちよくめい}によって造営されたと伝えられる日本有数の由緒ある神社です。春日大社国宝殿には数多くの文化財が収められています。そのなかに、文学関係の所蔵資料、とくに天皇や上皇が奉納^{ほうのう}した和歌や、神職^{しんしよく}の人びとの詠作^{かいし}をしるした、懐紙^{たんざく}・短冊^{まきもの}、巻物^{さつし}・冊子の類があります。いずれも春日社における和歌活動の実態をうかがわせる、文学史のうえで貴重な資料です。また、現在所蔵する資料の多くは江戸時代以降のものですが、和歌を詠む営みは、さらに遡った時代から盛んに行われていました。

国文学研究資料館の共同研究による調査研究の成果をわかりやすくお話しすることを目的とする本セミナーも、この令和8年度が2回目となります。今回は2つの講演で、鎌倉時代後期と江戸時代中期をとりあげ、和歌を介した活動が春日社でいきづいていた様相を歴史的に見てゆきます。

開催日 2026年 11月21日(土曜日) 14時～16時30分

場所 奈良女子大学 N101教室
(住所 〒630-8506 奈良県奈良市北魚屋西町)

挨拶 立命館大学文学部教授/共同研究代表者
かわさき さ ち こ
川崎佐知子

講演 講師 国文学研究資料館教授 【演題】 かげん かすがしやしゃけ
おかざき ま き こ 嘉元三年の春日社社家
岡崎真紀子 ながとみすけおみ じよう わかしゅう
—中臣祐臣『自葉和歌集』から—
講師 広島大学名誉教授 【演題】 きんせいちゅうきれいぜいはかだん なんとしやけたち
く ぼ た けい い ち 近世中期冷泉派歌壇の南都社家達
久保田啓一 てんとり
—一点取和歌・奉納和歌等に見る—

定員 100名

受講料 無 料

申込方法 事前申込制 先着順

①Eメール bunko.seminar@nijl.ac.jp

②ウェブフォーム <https://forms.office.com/r/wvB1t7pdqU>

上記いずれかの方法でお申し込みください。後日Eメールにて受講票を送付いたします。

Eメールの場合は、タイトルを「令和8年度春日大社セミナー」とし、本文に氏名、氏名ヨミ、メールアドレスを記入し送信してください。ご記入いただいた個人情報は、当行事運営のために使用します。

受付開始 9月 1日(火曜日)

締 切 11月 6日(金曜日) ただし、定員になり次第締切とします。

主 催
問い合わせ先

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館
National Institute of Japanese Literature

東京都立川市緑町10-3
HP: <https://www.nijl.ac.jp/>
E-mail: bunko.seminar@nijl.ac.jp

共 催

国立大学法人奈良国立大学機構
奈良女子大学
Nara Women's University

令和8年度 春日大社セミナー

挨拶

立命館大学文学部教授/共同研究代表者

かわさき さ ち こ

川崎佐知子

講演

講師

国文学研究資料館教授

おかざき ま き こ

岡崎真紀子

【演題】 ^{かげん}嘉元三年の春日社社家 ^{かすがしやしやけ}一中臣祐臣『自葉和歌集』から一
^{なかとみすけおみ} ^{じようわかしゅう}

『自葉和歌集』は、春日若宮神主をつとめた中臣祐臣(1275～1342)が、若い頃に詠んだ和歌をまとめた集です。鎌倉時代後期における春日社周辺のできごとや、春日社の社家の人びとが精力的に和歌に取りくんでいたことがうかがえ、歴史的にも文学的にも、興味深いものです。本講演では、嘉元三年(1305)に祐臣が詠んだ和歌を取りあげながら、京の二条為世などの歌人との関わりや、当時の春日社をめぐる動向について考えます。なぜ嘉元三年という年に着目するのか。それは当日お話しすることにいたしましょう。

講師

広島大学名誉教授

くぼ た けい い ち

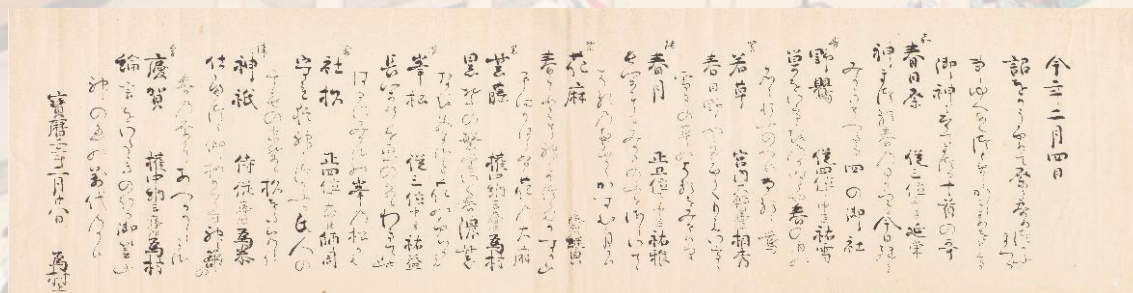
久保田啓一

【演題】 ^{きんせいちゅうきれいぜいはかだん}近世中期冷泉派歌壇の南都社家達 ^{なんとしやけたち}
^{てんとり}一点取和歌・奉納和歌等に見る一

享保期以降、冷泉家当主為久・為村が一門を拡大させるに至った要因としては、冷泉家の体現する伝統文化を徳川吉宗が尊重したという事実が存します。しかし、冷泉家の目配りの対象は、江戸幕臣層のみに限定されていたわけではありません。全国各地の神社に仕える神職を門下として組織化することにより、一門の一層の発展を図るという目算を、為久・為村が立てていたと推測できます。そして、京・伊勢等の有力諸社とともに活動の拠点となったのが春日大社でした。本講演では、富田延庸・同光知、西師周などの活動を軸に、為久・為村の指導ぶりとも絡めつつ、近世中期の冷泉派歌壇の実態を見てゆきます。



春日大社所蔵
『宝暦二年二月二十八日
春日社法楽和歌』



春日大社所蔵
『宝暦二年二月二十八日
春日社法楽和歌』



場所 奈良女子大学 N101教室
(住所 〒630-8506 奈良県奈良市北魚屋西町)

近鉄奈良駅(1番出口)から徒歩6分。
正門からお入りください。

問い合わせ先

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館
National Institute of Japanese Literature

東京都立川市緑町10-3
HP: <https://www.nijl.ac.jp/>
E-mail: bunko.seminar@nijl.ac.jp

背景画像は春日大社所蔵『春日社臨時御神楽図』

お申し込みはこちら

締切

11月6日(金曜日)

